

「瓦版」



2 0 2 1 . January. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

アンコールワットと新型コロナ

カンボジア北西部に位置するユネスコの世界遺産でヒンズー教寺院として作られた。16 世紀後半、仏教寺院に改修され、現在も上座部仏教寺院となっている。

クメール語でアンコールは王都、ワットは寺院を意味する。大伽藍と美しい彫刻を特徴としクメール建築の傑作とされ、カンボジア国旗の中央にも同国の象徴として描かれている。

17 世紀前半に朱印船貿易を通じて日本にアンコールワットの存在が知られるようになりました。日本人巡礼客によってアンコールワットの実測図が作成されており、水戸徳川家に所蔵されています。18 世紀にはシェムリアップ州がシャムに割譲された時代がありましたが、国内では口承や年代記でも語り継がれるなど、存在が忘れられたわけではありませんでした。

1863 年にカンボジアはフランスの保護国となりましたが、1953 年に独立した後、アンコールワットはノロドム・シハヌーク政権によってナショナリズムと強く結びつくようになりました。1972 年カンボジア内戦が起こり、1975 年以降ポルポト政権のもと一部遺跡群は破壊された時代もありましたが、1992 年アンコール遺跡として世界遺産に登録され、他国からの修復チーム(日本の JSA、インド、ドイツ、イタリア)の活動により現在の姿にまで修復されました。尚、参道の石組みの修復は日本人の石工が指導をしています。アンコールワットの濠は東西 1,500 メートル、南北 1,300 メートル、幅 190 メートル、回廊は精密な薄浮彫で埋め尽くされています。

アンコール遺跡群は 1 日当たり 8,000 名前後の外国人が入場する一大観光地です。新型コロナウイルスの世界的な蔓延に伴い、遺跡群を訪れる人たちが減り続け観光客は姿を消しました。この 20 年間に起こりえなかった一種異様な静寂な光景です。1 日も早く元の生活に戻ることを祈るばかりです。



元日の日の出を見る観光客

ガイドブックには(たぶん)ないシェムリアップはいかがですか？

若き日本人女性・木下滯那さんが開いたおしゃれなカフェ、レイズマレックカンポットカフェがシェムリアップにあります。スイーツや軽食、カクテルなどカンボジア産の胡椒を使ったユニークなメニューとふんわり優しい雰囲気の特徴のカフェです。カンポット産の胡椒を扱う販売スペースを備えた店内はエアコン付きで涼みながら飲食と買い物ができます。





カワイルカ

イラワジイルカとも呼ばれ、東南アジアの河川の河口などや海岸近くに生息する。産まれた直後は体長1m、体重10kg程度ですが、成長すると体長2.3m、体重130kg以上になります。寿命は約30年。泳ぎが遅く、回転するようにして上昇し、深く潜水するときのみ背びれを水面上に上げて力強く泳ぎます。また、スパイ・ホップの際に口から水を吐くという習性があります。クラチェ州はメコン川に面して大きな樹

木が並ぶ自然豊かな土地です。ここにカワイルカの生息が認められ、研究と保護のために開発され観光・行楽客を受け入れています。絶滅危惧に瀕しているとして、捕獲は法的に禁止されています。

カンボビーチクラブ

2018年12月24日にオープンしたカンボビーチクラブは、バリ島のビーチクラブをイメージして作られました。飛び込み用プールまで備えた全長30mのプールを囲む約5,000㎡の広い敷地には砂が敷かれ、ビーチ用クッションとパラソルが並びます。プール、飲食、ビリヤード、卓球、マッサージと施設内の娯楽も充実しています。各種イベントも頻繁に開催しており、パーティー好きに家族連れ、現地の人も外国人在住者も旅行者も集まる、ホットなスポットです。

喧騒を離れ、天井が高く広々としたロビーラウンジで優雅な午後のひと時を過ごせるルメリディアンアンコールのアフタヌーンティーもおすすめです。



ルメリディアンアンコールの
アフタヌーンティーセット

——— ○ ——— ○ ——— フルーツ ——— ○ ——— ○ ———



ブラックプラム (ムラサキフトモモ)
black plum

プリン
ព្រីន



ザクロ
pomegranate

トゥトゥム
តូតូម



スイカ
watermelon

アウラック
អូរ៉ាក់



ワックスアップル
wax apple / rose apple

チュンブー
ច្បូនបូ

仙台あれこれ...



〒980-8652 宮城県仙台市青葉区一番町三丁目2-17
TEL 022-261-5111 (代表)

創業200年 歴史ある百貨店 藤崎 ～地域のお客様に愛されて～

藤崎は1819年(文政2年)、初代藤崎三郎助が大町2丁目に開いた太物(木綿の着物)商の店が始まりです。

ファッションとギフトの百貨店として、創業時から変わらず200年、地域の発展に寄与すること、お客様の笑顔とご満足が一番の価値とし、この仙台的地で歩んでまいりました。

現在、仙台市の中心部である一番町に本館・大町館・一番町館・ファーストタワー館の4店舗、東北地方に18店舗を構え、地域の皆様に世代を超えて愛されて続けています。



百貨店に神社？えびす様と藤崎の関係とは



創業当時、仙台の城下の人々が「商売繁盛の神様」「大漁・五穀豊穡の神様」「福の神様」として「えびす様」を信仰していたことから、初代三郎助は、この縁起のいい神様にあやかって商いをスタートしました。

藤崎の屋号である「得可壽屋(えびすや)」から、その後「藤崎呉服店」「藤崎」と社名を変えても、藤崎はえびす様を大切に崇め、1932年の建て替えを機に、今まで氏神様として店の奥に祀られていたえびす様を店舗屋上にお祀りしたことから、「藤崎えびす神社」が誕生しました。

本館8階屋上にある神社では、商売繁盛・除災招福を祈願し、今でも多くのお客様が参拝に訪れています。

今日も、えびす様が人々の幸せを願い、優しく見守ってくれています。

御朱印の記帳も行っておりますので、藤崎を訪れた際には是非お立ち寄りください。

■参拝時間 午前11時から午後5時まで

■本館8階屋上

